

水前寺江津湖公園

<地理>

- 本市の中心部から南東へ約5km
- 公園面積126.9haの都市公園（広域公園）
（東西に約2km、南北に約3.5km）
- 湖面面積は約50ha

<環境>

- 1日約47万トンが湧出する、全国でも有数の湿地
- 希少種や固有種等が生息生育する湖沼や湧水地の一つとして「日本の重要湿地500」に選定

<歴史文化>

- 国指定の名勝・史跡『水前寺成趣園』
- 国指定天然記念物『スイゼンジノリ発生地』
- 加藤清正公時代に築かれたと伝わる『江津塘』など



計画策定の背景

主な課題

《自然環境の再生》

水環境の悪化
湧水量の減少やごみ堆積による汚染
生物多様性の劣化
外来生物の繁殖（動物・植物）



《地域資源の活用》

歴史文化資源の発信不足
庭園文化や句碑が知られていない
公園空間の活用不足
公園を使いきれていない



《公園価値の創造》

魅力の発掘
新たな魅力の発掘と効果的な発信
担い手不足
次世代へ継承する人材の育成



計画のポイント

恵まれた自然環境の保全



資源の顕在化と活用



次世代へのリレー



江津湖のポテンシャルは、「恵まれた自然環境」。自然環境を活かした事業を展開。

計画の概要

目的・背景

- 江津湖は、阿蘇の大噴火により形成された水循環のしくみによって、豊かな地下水が湧出する「水の都くまもと」のシンボルであり、自然と人との関わり共生してきた市民の憩いの場所です。
- 一方、自然環境の保全や歴史・文化資源の活用、公園施設の老朽化や市民ニーズの多様化に伴う対応など、公園を取巻く様々な状況への対応が求められています。
- そこで、江津湖の持つ価値をあらためて見つめ直し、今日の直面する課題を解決していくとともに、自然と人との共生による持続可能性を見出し、この貴重な財産を次の世代へ継承していくため、保全と利活用の両面から本計画を策定します。

計画の対象区域

「水前寺地区」「出水地区」「上江津地区」「下江津地区（動植物園含む）」「広木地区」「庄口地区」の6地区（計126.9ha）のうち、公園として供用している区域

計画の対象期間

令和2年度（2020年度）から令和11年度（2029年度）までの10年間
stage1：令和2年度（2020年度）～ 令和3年度（2021年度）（全国都市緑化フェアまで）
stage2：令和4年度（2022年度）～ 令和11年度（2029年度）

計画の位置づけ

- 本計画は、水前寺江津湖公園の「自然環境・歴史文化資源の保全」と「公園の利活用」の両面における今後の方向性と具体的な取組を示したものです。
- 本計画を、市民・事業者・関連団体・行政等が共有し、それぞれの役割を認識して、着実な事業推進を図り、公園の持つ魅力を広く発信していくものとします。

熊本市第7次総合計画 <目標年次:令和5年度(2023年度)>

【目指すまちの姿】市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたくなるまち、「上質な生活都市」

第2次熊本市都市マスタープラン <目標年次:令和7年(2025年)>

【将来像】豊かな水と緑、多様な都市サービスが支える活力ある多核連携都市

水前寺江津湖公園利活用・保全計画(目標年次:令和11年度)

【基本理念】「湧水により育まれてきた自然と人との共生」の継承

熊本市動植物園マスタープラン
(目標年次:令和11年度)

熊本市生物多様性戦略
第3次熊本市環境総合計画
第3次熊本市地下水保全プラン

水前寺江津湖公園利活用・保全計画【概要版】②

基本理念

江津湖の持つ価値をあらためて見つめ直し、今日の直面する課題を解決していくとともに、自然と人との共生による持続可能性を見出し、貴重な財産を次の世代に引き継ぐため、基本理念を掲げます。

基本理念：「湧水により育まれてきた自然と人との共生」の継承

これからも守り育てるべき価値



※SDGsの達成を目指します



基本方針

自然環境・歴史文化資源の保全

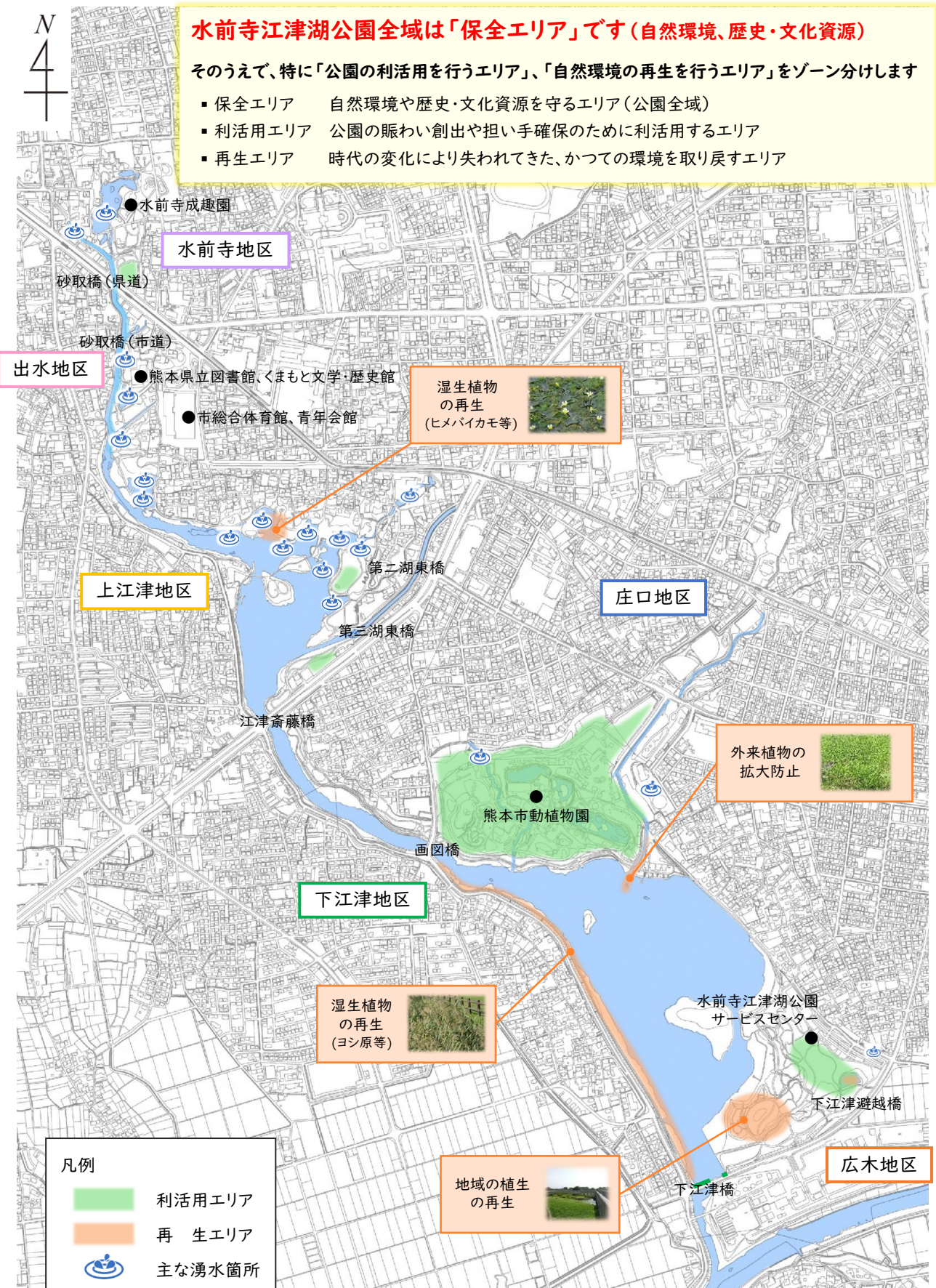
- 基本方針① 大地が育む豊かな水環境と水循環の保全
- 基本方針② 生物多様性の保全と自然と人との共存・共生
- 基本方針③ 歴史・文化の活用と次世代への継承
- 基本方針④ 江津湖の資産・資源の継承と発信

公園の利活用

- 基本方針⑤ 江津湖のポテンシャルを活かした空間の創出
- 基本方針⑥ 適切な公園経営と次世代への資産運用
- 基本方針⑦ 持続性のある運営手法と担い手づくり



ゾーニング



水前寺江津湖公園利活用・保全計画【概要版】 ③

基本方針に基づく各地区の主要事業イメージ

水前寺地区 ～水前寺成趣園と連携した歴史・文化を学ぶ空間～

景観整備

→歩いて楽しめるスポット化

【目標期】stage2

【実施者】熊本市



(散策路)

国際観光重点地域(仮称)

→外国人観光客の満足度向上

【目標期】stage1

【実施者】熊本市、企業、関連団体



(外国人観光客)

地区の一体化

→サイン等による連続性の演出

【目標期】stage1

【実施者】熊本市、企業



(水前寺成趣園サイン)

出水地区 ～自然環境を感じ健康づくりの発信拠点となる空間～

ガイドツアーの実施

→歴史文化資源の魅力発信

【目標期】stage1 ※以降も継続

【実施者】関連団体、企業
熊本市、県立図書館



(ガイドツアー)

旧砂取細川邸庭園の保存活用

→文化財価値の広報・保存・活用

【目標期】stage1

【実施者】熊本市、県立図書館



(旧砂取細川邸庭園)

公園を核とした健康づくり

→体育館と連携したプログラム

【目標期】stage1 ※以降も継続

【実施者】熊本市、市体育館
関連団体、企業



(ヨガ)

上江津地区 ～昔ながらの情緒豊かな風景美と生物多様性を保全する空間～

外来生物の駆除

→生物多様性の保全

【目標期】stage2 ※以降も継続

【実施者】熊本市
ボランティア、関連団体



(外来植物の駆除)

ゾウさんプールの再整備

→かつての賑わいを取り戻す

【目標期】stage1

【実施者】熊本市
ボランティア、地域団体



(ゾウさんプール)

森と水の都の発信 ※下江津含む

→イベントを活用した地元農産物の販売
「水の駅」など

【目標期】stage1 ※以降も継続

【実施者】熊本市、企業、関連団体



(マルシェ)

下江津地区 ～動植物園と連携した魅力あふれる空間～

情報発信の場づくり

→江津湖の情報を集積発信

【目標期】stage2

【実施者】熊本市、関連団体



(江津湖ジオラマ)

自然環境の保全

→生きものの生息場所の確保

【目標期】stage2 ※以降も継続

【実施者】関連団体、熊本市



(水草清掃ボランティア)

動植物園との一体化

→展望デッキの設置など

【目標期】stage1

【実施者】熊本市、企業



(展望デッキ)

広木地区 ～幅広い世代が様々なアクティビティを楽しめる空間～

ヨシ群の保全

→利活用エリアとの明確化

【目標期】stage2 ※以降も継続

【実施者】関連団体、熊本市



(ヨシ)

自然観察会の実施

→環境保全へのきっかけ

【目標期】stage1 ※以降も継続

【実施者】関連団体、企業、熊本市



(春の草花遊び)

新たな遊び場づくり

→自然に親しむ遊び

【目標期】stage1 ※以降も継続

【実施者】熊本市、企業、関連団体



(グランピング)

庄口地区 ～様々な運動を楽しめるプロムナード空間～

地下水の保全・PR ※全域

→熊本県の宝の保全

【目標期】stage2 ※以降も継続

【実施者】熊本市、関連団体



(湧水)

園路・景観整備

→歩いて楽しめるプロムナード空間

【目標期】stage2

【実施者】熊本市



(水を活かした散策路)

イベントガイドライン ※今後、利用団体ヒアリングや利用範囲・料金等を検討したうえで策定します

本計画において、自然環境の保全や公園の魅力向上、情報発信、将来の担い手づくりにつながるイベントのルールづくりを行います。(=「イベントガイドライン」の策定)

主なポイント

ルールの明確化

→対象内容や場所を設定し
自然環境を保全

市主催・共催を問わない

→開催のハードルが下がり
賑わいの創出に寄与

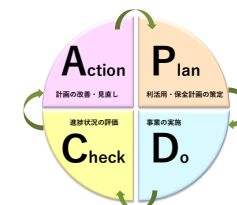


(江津湖Living)

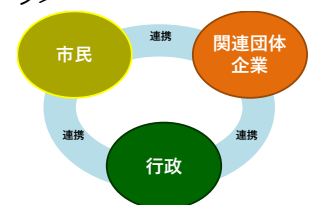
事業推進体制

本計画が実効性のあるものとして着実に推進するため、行政、市民、関連団体、企業などが連携した取組やエリアマネジメントによる運営等を行うとともに、水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会を中心に、PDCAサイクルに基づいて進捗状況を管理します。

<連携イメージ>



江津湖を取巻く自然環境や社会情勢などの変化に柔軟に対応し、適宜、取組状況の検証を行うとともに、中間見直しを行います



水前寺江津湖公園利活用・保全計画の推進体制について

水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会

※熊本市附属機関設置条例により設置（H30年1定）

水前寺江津湖公園利活用・保全計画の事業進捗に関する協議

協議会参加者

＜会長＞市川教授（東海大学）

＜副会長＞星野准教授（熊本大学）

＜委員＞学識経験者、校区自治協議会、地域団体、事業者、環境団体等

＜幹事（課長級）＞

土木部長、環境共生課長、水保全課長、動植物園長、文化財課長

東区土木センター所長、まちづくりセンター所長（中央区・東区）等15名

今後の協議会の運営について

・開催 年1回（年度末を想定）

・内容 計画の進捗管理、事業の検証、計画の見直し（緑化フェア後）等

環境部会

会長

皆川委員（熊本大学）

自然環境の保全

＜協議事項＞

地下水の保全、在来生物の保全、外来種の除去等

＜部会メンバー＞

尾崎委員（市造協）、奥村委員（記念植物）、歌岡委員（野生生物）、
田畑委員（自然観察）、原口委員（野鳥の会）

歴史文化の保存活用

＜協議事項＞

歴史文化資源の保存と情報発信、担い手の育成等

＜部会メンバー＞

内藤委員（ボート協会）、丸山委員（県立図書館）、原委員（文化協会）
永野委員（水前寺PT）、尾崎委員（市造協）

庁内関係課

文化財課、環境政策課、環境共生課、水保全課、動植物園、農業政策課、
河川課、東区土木センター、まちづくりセンター、熊本博物館、指導課、
経営企画課、公園課

アクティビティ・マネジメント部会

会長

星野委員（熊本大学）

＜協議事項＞

魅力あるプログラムの創出等について、江津湖のブランド化、
人材育成・担い手づくり等について

＜部会メンバー（マネジメント）＞

葉山委員（美術文化）、吉住委員（地方経済）、栗原委員（グリーン）、
若松委員（スポーツ）、西原委員（子育てNW）

＜部会メンバー（ステークホルダー）＞

内藤委員（ボート協会）、村上委員（江津湖貸船）、江藤委員（江津湖観光）、
丸山委員（図書館）、桑村委員（市体育館）、楠本委員（水前寺PT）、
松本委員（市造協）

庁内関係課

健康づくり推進課、環境共生課、水保全課、観光政策課、イベント推進課、
動植物園、スポーツ振興課、農業政策課、水産振興センター、河川課、
東区土木センター、まちづくりセンター、公園課

部会の運営について

・開催 年2回程度

・内容 事業手法の検討、取組状況の確認等

※部会は上記を基本メンバーとし案件に応じてメンバーを招集（10名程度）

常時参加者 **部会長、環境共生課、水保全課、まちづくりセンター、土木センター、公園課**

庁内検討会議

検討事項

・事業の検討
・庁内連携・調整
・情報共有

＜会長＞

土木部長

＜副会長＞

観光交流部長

＜関係課長（25課長）＞

政策企画課

資産マネジメント課

文化財課

健康づくり推進課

環境政策課

環境共生課

水保全課

観光政策課

動植物園

イベント推進課

スポーツ振興課

農業政策課

水産振興センター

都市政策課

交通企画課

都市デザイン課

河川課

東区土木センター

中央区まちづくりセンター

東部まちづくりセンター

秋津まちづくりセンター

熊本博物館

指導課

経営企画課

公園課